

介護・福祉ロボットの普及促進へ

党県議団がシンポジウム開く

神奈川県

介護支援や福祉分野で役立つロボット技術の実用性をPRし、その普及を促進しようと、公明党神奈川県議団(鈴木秀志団長)は11月29日、第1回かながわ未来フォーラムを横浜市内で開催した。「介護・福祉ロボットシンポジウム」と銘打たれた同フォーラムには県内外の企業、大学、行政、介護・福祉関係者など約200人が参加。介護・福祉ロボットの現状や将来性などについて理解を深めた。



展示コーナーでは介護・福祉ロボットの実演も行われた



「介護・福祉ロボットシンポジウム」には、芝浦工業大学の米田隆志副学長、東洋大学の高橋良至准教授、社団法人かながわ福祉サービス振興会の瀬戸恒彦専務理事らをはじめ、黒岩祐治知事も

優れた実用性をPR

会話機能、リハビリや癒やし効果も

県内外の関係者ら約200人参加

来賓として出席。会場内には、介護・福祉ロボットの展示コーナーが設けられ、開発企業の担当者による実演も行われた。

冒頭、鈴木団長は党県議団の提案で「介護・医療分野ロボット普及推進事業」が立ち上げられた経緯などを紹介した上で、「今後も介護現場の



活発に意見が交わされた。特に心のつながりやリハビリに役立つロボットの実用化が最も有望だ」と指摘した。

続くパネルディスカッションでは、県から普及推進事業を委託されている同振興会の瀬戸氏が昨年年度の実施結果を踏まえ、今年度はガイドラインの作成やロボットの機能を有効に引き出す人材の育成に努めている現状を報告。

このほか、「効果を上げるにはロボットを用いる本人の

知事は、先端テクノロジー(科学技術)が医療や福祉、介護の現場を変えた実例を挙げながら、「さまざまなテクノロジーを結集し、医療、福祉、介護の最先端を行く県としていきたい」と述べた。

基調講演で米田氏は、注目の介護・福祉ロボットとして①会話機能などがあるコミュニケーションロボット②ペットと同様の癒やし効果が期待されるロボット③身体動作を支援するリハビリテーションロボット——を挙げ、

「ロボット技術の存在は介護を支える側にとっても大変心強い」「単なる機械だと思っていたが、実際に触れてみて優れた実用性を実感した」といった声が寄せられ、実用化への関心と期待の高さがうかがわれた。